

題目 サイコパス傾向と社会的意思決定の関連

氏名 佐々木文

指導教官 高橋伸幸

反社会的行動をとる人間の中には、サイコパス（精神病質：Psychopath）と呼ばれる群が存在する。サイコパスとは深刻な共感性・道徳性の欠如や衝動的・無計画な行動などを見せる、複合的な人格障害である。その特徴は主に共感性欠如・罪悪感欠如・他者操作などの内面的な側面（一次性サイコパシー）と、衝動性・行動の非制御・逸脱行動の経験などの行動上の側面（二次性サイコパシー）に二分される。ここではサイコパス傾向と社会的交換状況における行動の関連を調べその思考形態などについて推測していくことを目的とし、一般サンプル実験で調査した社会的意思決定課題との相関を検証していく。

対象としたのは独裁者ゲーム、最後通告ゲーム、信頼ゲーム、社会的ジレンマゲーム、囚人のジレンマゲームと一次性サイコパシー・二次性サイコパシー尺度得点との相関である。まず一次性サイコパシー傾向が強いほど信頼ゲームにおいて相手を信頼せず、信頼された場合でも返報しないという結果が出た。これはサイコパスにおける互惠性の障害を示唆している。また、最後通告ゲームでも一次性サイコパシー得点が高いほど分け手になった時相手に分配しない傾向があった。囚人のジレンマゲームにおいても一次性和相手への提供額、相手に期待する提供額との間に負の相関がある。独裁者ゲームでの行動とは相関が見られなかったことから、これらの結果は単なるサイコパスの利己性の発露ではない。むしろ、最後通告ゲームでは「少ない提供額であっても、拒否して取り分をなくす真似はしないだろう」と、相手が合理的な選択をすると予測していたのだと見られる。サイコパスにおいては他者に対し通常の人々がするような「相手は互惠性を持っている」という予測をせず、「相手は合理的に振る舞うだろう」と推測している可能性がある。信頼ゲームの結果も、「相手は合理的に振る舞うだろうから、与えられたお金を返報し、自分の取り分を減らす真似はしないだろう」と推測したからこそだと考えられる。

サイコパスは感情が希薄で自分の利益のため他人を利用することを厭わない。彼らは、その傾向を他人にも当てはめて考えている可能性がある。